萬葉集註釋

巻之二之四

特別
へ4
5497
1

特
へ 4
5497
1

萬葉集註釋 巻序

岡田眞之藏書
貴重書

昭和三十一年十月四日 購求

[illegible]

[illegible]

[illegible]

事甚疑有道理有文證先道理者此集卷中神龜年中歌天平以
年之間歌具以多載之始自第十八卷天平勝宝年中歌多以入
之是一次作者宣遠是淺大律家持不載之宜唯内舎人我中守
兵部少輔同大輔お納言右中弁出也此外不經宣位不見家持者宝
亀十一年二月一日任参議更曆二年七月十三日任中納言此集若大
同之撰者公卿时歌何不載之乎加之右大弁藤原朝臣八束左中弁
大中臣朝臣清麿氏部少輔多治比朝臣土左治部少輔石上朝
臣家嗣此集作者也而藤原八束朝臣者改名真楯天平神護
二年二月八日任大納言清麿朝臣者宝亀二年三月十三日任右大
臣土左朝臣者宝亀元年七月十三日任参議家嗣朝臣者宝亀
十一年二月一日任大納言凡云作者云云非作者淡位被載其名於其
集云軍天平勝宝以後次第界界進加階經叙年之後或任大臣或列

公卿云叙十余輩也若為大同之撰者何不挙極官乎以知宝亀之时撰
也是上代歌者奉其時代而謂伯瀬朝倉宮御宇天皇代高市岡本宮
御宇天皇代乃至藤原宮御宇天皇代註之元明天皇御宇歌有寧
楽宮之詞第一二卷有之也而今於神亀天平以歌者無如此詞是
當代之故也代代天皇御製歌亦有其註第十八卷太上皇御在難波
宮之時歌七首清足姫天皇也云云此皆正天皇也至宝亀天皇御製者是
如此之註是當代故也是三其道理如斯此上舊集中有三文證而
先達未顧云若疑雖今見知依秘蔵且不言弘又恐不措心勘漏
弘其三證者一者第一卷以矢武天皇
岡御宇之後天平宿禰賀以前有元明元正両帝以前御代先而彼
両帝不稱大行天皇至矢武者宝亀以後大王也為彼之有大
行云稱歟如凡人云道俗稱先師先考亦先祖宝亀以後撰一文

誤也抑仍旧一卷大行天皇或謂之持統其仍旧也何者旧一卷
云慶雲三年太上天皇幸難波宮時歌四首太上天皇幸吉野
宮時高市連黒人作歌云云又次大行天皇幸難波宮時歌二首
大行天皇幸吉野宮時歌二首云云被時言太上天皇者持統也
大行天皇者文武也若為一帝者何忽換言不審云云乎仍旧
九卷云大宝元年辛丑冬十月太上天皇大行天皇幸紀伊國時
歌十三首云云若為一帝者何煩相連兩名乎應知二者別古卷
先太上天皇御製霍公鳥歌一首註云日本根子高瑞日清足姫
天皇云云今按持統元明共有太上天皇云云号然而事隔故不
稱先天平勝寶以後聖武既太上天皇也此集今應太上天皇
之詔撰之仍為異云云元正稱先太上天皇是指聖武云云撰二
文雖也之者動此撰集年紀始自天平年中至于天平勝宝被撰

之旨分明者也所得旧一卷歌者始自天平二年冬十一月歌至
于同廿年歌其中載山部宿禰明人部春鶯歌年云右年月処未
得詳審但随聞云時記載歌数云云也歌天平十三年歌中書之
又古歌一首大原高安真人作年月不審但隠岐時記載歌数云云也歌天平
十年歌中書之次者第十九卷歌者天平勝宝二之四年歌
也其中天平二年歌[illegible]之唐使歌并阿倍朝臣老人遣唐時奉母
悲別歌載之云云右件歌者傳誦之人越中大目高安宿禰人麻呂
是也但年月次者随聞之時載歌数也歌天平勝宝之年云云
書之又云壬申年云云乱定以後歌二首壬申年云云乱者天武天皇元年大友皇子与乱也
望者神武天皇御駕者奈良帝御駕者桓武帝也
右大将軍贈右大臣大伴卿作
大王者神武天皇御宇者水鳥乃原久水以南平宮都者成通作者之年

右二首天平勝宝四年二月十日内裏之撰三文譬也今既有如此明證何又背之好之異儀環懷迷惑乎　次撰者或稱山上臣憶良或称橘大臣或稱藤原真樹或稱大伴家持今按山上憶良者此撰集以前先逝矣此集歌中見山上憶良類聚歌林不引之故九代集者六国集為宗被撰之由而申傳也六国集者古歌集柿本人丸歌集山上憶良類聚歌林笠朝臣金村集高橋連蟲麻呂集田邊史福麻呂集也以引此不集之歌可知年紀前後又非撰者所不證據分明者猶有疑殆又如前兵部侍郎仲入道抄物者万葉集者橋諸兄藤原真樹奉勅撰之之雖然於真樹者不知其證據如當集現文者橘大臣大伴家持両人為撰者所而以者何橘大臣謂撰者事者先達多以稱之随萬葉集奥書云天平勝寶五年

右大臣橘諸兄撰等集之云何可不用而註乎就中此集中橘大臣為撰者所之由有見事第十九卷以前言大伴宿禰家持歌云白雪能布里之久山乎越由加年若乎曽母等奈伊吉能乎尓怠　右大臣橘尾云伊彼能乎尓須流然行宥曰以前誦之也以此者右大臣為撰者之間於不其心句依撰之所而又家持相共依為撰者哉以前誦之由乎両人共不為撰者右不可及評判者欲爰知左大臣為撰者乎次又家持見撰者證拠動之者第十九卷奥云但古卷中不称作者名字徒録年月而已之録者皆大伴宿禰家持載作歌之也之然則為撰者天平勝宝二年己亥使歌并壬申年之乱定以後歌以後之以載天平勝宝二年者皆是家持和註也如之因為廿卷天平勝宝七年春時分芳年所人歌也之年之之右八首昔年訪人歌矣主典移部少録西七位上磐余伊美吉諸君抄

爲贈兵部卿大伴宿禰家持云々當知爲撰者故追贈之歟也後者
如此見而古人相共謂爲撰者也萬葉集爲聖武御時撰歟
無和歌但以聖武稱平城宮御宇天皇云々
平一云石川朝臣年足後國本朝左大臣大素藤原朝臣
城朝左大弁之位石足一男者
以下第二位天平元年二月任參議四位下九年二月
從三位此平城朝相當聖武矣
又云藤原朝臣第五子天平城朝左大臣四位也長屋王男者
以下第二長屋王者和銅二年十月參議從三位宮內卿同三年閏
十月式部卿兼官元年二月四日正二位左大臣天平元年三月十日薨
年月數此平城朝者相當聖武矣
後日本紀云從五位下紀朝臣國益男清人天平十五年治部大輔出爲平

城宮御宇天皇者
以下第二相當聖武矣
萬葉集第十七云天平十六年四月五日獨居於平城故宅大伴宿禰家持作歌
六首者
尾張國風土記云第宗那川邊社在河原郷
乙海郡忍人神此神化爲白鹿時出現有詔奉祈爲天社國玉宮如
那福寺俗名之宅寺十四歩南去郡家九里在四下郡郷伊福寺
彦命天皇御宇元年主政外從七位下之宅連麻侯而奉造也當國
風土記丹後國文珠以今明平
備中國風土記云賀陽郡好岡云國東南維二里驛路在今新造御宅
奉爲朝庭以天平六年甲戌國司從五位下熟十二等石川朝臣賀茂郡
司大領從六位上熟十二等下道朝臣人主大領從七位下熟十二等國

臣五百國主時造姓云

羅板

羅板

羅板

家初与縫殿中間非可若異且又数郡領和相傳者歟等不論自家代家
奉異給之者也今又不可遠於斯仍書之時歴十代者也若又云大同元年
今相亂時歴十代之句者不可云数乙百年自大同元年至天喜五年者百年
也不可云過百年何況大同元年者在位四年也自即位年有撰集事不審又
好事給更不見當其時号撰者仁也是古抜 右不審也或本古序数及百年是
又不可然乎其名序假名序甚古歟不可相違乎假名序云の中より
相違乎

萬葉集註釋卷第一

泊瀬朝倉宮御宇天皇代

天皇御製歌

籠毛與美籠母乳布久思毛与夢夫君志持此岳尓菜摘須児家告閑
名告沙根虚見津山跡乃国者押奈戸手吾許曽居師告名倍手吾
己曽座我許者背奈家告目家呼毛名雄毛

此御製歌一有二種説一本説云

こもよみこもちふくしもよ。みなのらさねそらみつやまとのくには。おしなべてわれこそをしけ。われこそは。をしなへてわれこそいませ。

又或本歌云

こもよみこもちふくしもよ。みなのらすをしからつまと。をしなへてわれこそをしけ。われこそは。をしなへてわれこそいませ。

又或本歌云

夫木三二次 こけ衣 雑部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天皇遊猟内野之時中臣鎌足使問人連老獻歌　鹿初之我大王
[illegible]
[illegible]
[illegible]

内人奏言於蘇田堤鳥彦之郎日遣使令視曰既實也天皇於是歎以
問武内宿祢曰多莽者破婁宇知能阿勇儺虚勇破豫等保辭等
儺虚勇破邑珥拜箇利古武等儺波企箇鞠挪武内宿祢答郎曰
夜莉漑姫之柏我於明柏漑波。于陪儺于陪儺。和例烏斗波鞠儺。阿企莵
辞摩。挪莽等能俱珥。箇利古武等。和例破柏箇儒　又因十四卷云。大
泊瀬幼武天皇五年春二月桜桃于葛城山昊島名来其大如雀尾
長曳地而旦吟日暮力〻俄而見逐嗔猪從草中暴出逐人猪從縁
樹大懼天皇就宮人曰猛獸逢人則止宜逆射而旦刺宮人性懦弱
縁樹失色五情無主嗔猪直来欲噬天皇〻〻用弓刺止牽殿
踞殺於是田羅欲新宮人〻〻臨刑而作歌曰邪須漑漑斯志倭我
飯嘉柏漑能阿蘇磨斯志。斯〻能方能柏漑倭我尼昊能哀

利志阿理嶋能方信能波利我夫陛阿西嶋〻この歌歌雖多略して
一首を載せ也又繼日本紀卷十五卷歌曰唐漑義斯志。和已於保支義波。
多波良気久。那何久伊未之五等支義波廣都漑。八隅知〻可思之夜
漑義斯志。賀能〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻先達之以都須漑志漑い
帝七八方〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻

すなはち常の夏と雖而今年之秋不相應者行幸可為如何手又郡領等
源云や　郡領等所申云国郡異名為名之間不審之事也
之中和名抄云郡領之名一の名也又中
古之時和名抄之時郡領一の名也
世人和名抄云郡領一の名也
慕なる雖也云云　郡領
の名　郡名云氏和名抄云郡領
云八郎云云　初の名也
国の面を大の字の面と中名抄云郡領
いかなる事歟国国相通　又国国相通

すなはち以唯切可云云　海中の海と
切顔云云　阪　和名云阪隔也為阪尔雅云正
月曰孟陬麻果云説文数在
阪　尔雅云水中不流者曰阪　説文云四方皆有水也
阪　和名抄云阪隔也尔
雅正麻果云説文
数在月
曰孟陬
阪
阪　尔雅云水中不流者曰阪　説文云四方皆有水也
絶也阪者水中不居也云云　海と隔と云云　以後也　能中　於秋朝
者伊特諸伊特冊尊立於天浮橋之上共計曰底下豈可国欲更以天之
瓊　瓊玉也　矛指下而搔　是獲滄溟之矛鋒滴瀝之潮凝成一島
名之曰磤馭盧島二神　於是降於彼島因欲共以夫婦產生阪国
便以磤馭盧島為国中之柱　見日本紀
生八阪国御見　日本紀云及至產時先以淡路洲為胞意所不快
故名之曰淡路阪　延生大日本　日本紀云和麻豊秋津阪　次生伊豫二
名阪　次生筑紫阪　次生隱岐阪　次生佐渡阪　世人或有雙生者象此也

次生就例次生大例次生吉備子例由此始起大八洲國之號焉
北次本五
種異說大倭雖同有少異也要之
欲考知者可見日本紀
[illegible]八例也[illegible]
[illegible]
或云石村玉穗宮大八洲所取天皇之世或云難波長柄豐前大朝八洲
撫取天皇之世所波國風記或云大倭志紀洲宮姬國大八島國所知天皇
延佑天皇
皇朝廷
或云難波高宮大八島國所知天皇或云樟前伊富利野乃宮
仁德天皇
大八島國所知天皇又續日本紀第一天[illegible]京豐祖父天皇丁酉年
八月甲子朔受禪即位辰詔曰視御神上大八島國所知天皇大
命良敕
上
新大命平云同年十月壬寅朔三月
至今月不雨奉幣命幾問諸神社祈雨焉三日癸卯拜伯方
內裏皇太子親修五節右大臣橘諸兄奉詔奏上天皇曰
天皇大命尔坐而奏賜久掛母畏伎飛鳥淨御原宮尔大八洲所知
皇乃天皇命天下平治賜比新思坐久上下平齊信和氣久無動久穆加
知食有知波礼孝樂孝二都置立志平久長久可有孝隨神母所
思坐比乃[illegible]平治賜比造賜比彼孝聞食与天地共尔絶事無
於板
久弥継知受賜波利行年物孝之皇太子謝王尔孝志須命荷
地板
我皇天皇乃大御尔貢事平奏孝云已上八隅者八洲云國言例
隆也又或賢者說云八隅知之者欲一須浄し下有東南西北四列
ナミ板
於四維又一維有二中例合八中例也其東南角以巳方外名安摩雖
列是云大日本國我朝皇[illegible]領此列故曰八隅知之我大王也
有此義更為今疑云八隅即大八洲也為國言支其例儀國之支已了
臣或也

[illegible]者[illegible]其[illegible]有數中一謂[illegible]八[illegible]知[illegible]此[illegible]正[illegible]事
無煩故也何[illegible]易用難乎[illegible]何[illegible]若邪須[illegible]斯志[illegible]其[illegible]
又日本紀[illegible]真名[illegible]名[illegible]也誰有[illegible]仁不[illegible]乎何拙[illegible]花[illegible]過[illegible]
[illegible]辭一偏用過[illegible]昇[illegible]言矣
朝庭[illegible]取[illegible]婦夕庭[illegible]緣立之[illegible]執乃[illegible]梓弓之[illegible]加彈乃[illegible]言[illegible]奈利
[illegible]
[illegible]阿[illegible]
云[illegible]
[illegible]或[illegible]云[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

反歌

[illegible]

注曰時宮殿在二樹本一[illegible]

[illegible]

[illegible]

明日香川原宮御宇天皇代

額田王歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

打麻年齢を白水郎有り
[illegible]
天皇御製歌一首
隱れ沼の
時自久宮
私云日本紀卅六清寧天皇五年秋九月九年春二月
唐土朝天皇帝田道間守遣常世國令求非時香菓
今謂橘是也九十九年秋七月戊午朝天皇崩於纒向宮
時年百四十歲冬十二月葬於菅原伏見陵
明年春三月辛未朝五年田道間守至自常世國則齎物
也非時香菓八竿八縵要田道間守於是泣悲歎之曰
帝天朝遠往絶域万里踏浪度弱水是常世國則神仙
秘區俗非所臻是以往者不返自經十年豈期獨凌峻瀾更
向本土辛苦頼聖帝之神靈得還來今天皇既崩不得復
命悲歎流涙也田道守是之宅邊之地也以之東方時自久
曾雪者居不言云非時雪者居蓬言云非時雪者居蓬
[illegible]
[illegible]
[illegible]

玉泉欽部少輔山乃檜原日知之御世後
[illegible]
時軍王見山作歌の詞の中に檜原懸乃宮人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
順和名抄[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

阿礼廣師[illegible]
[illegible]
神[illegible]書樔末乃弥継[illegible]
[illegible]
事[illegible]
[illegible]玉篇書字[illegible]書者也[illegible]故[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]玉篇云樛居秋切詩曰南有樛木下曲曰樛移同
上[illegible]云下句曰樛廣韻下平声尤第二云樛説文云下句高樛
詩曰南有樛木傳云木下曲也居料切[illegible]樛木[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
青丹去年山年部　此句古態者[illegible]
[illegible]
夫雖恵者雖有此[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

萬葉集註釋卷第一下

白浪乃濱松之枝乃手向草幾代左右而賀年乃經去良武

一云年者經尓計武

此歌は一首二の句ともに定まらぬ歌なり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

安是之嬢子弟日伊夜是留乃阿是乃古麻都尓由布志豆々和乎

布利弥由毋阿是古志麻波毋[illegible]是ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

て少四[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山神　[illegible]

遊到川之　[illegible]

山川毋依之奉流神乃御式鴨

山[illegible]川[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原[illegible]今の歌と指[illegible]者この白[illegible]都[illegible]度毛能[illegible]和すあり
[illegible]書[illegible]頭部[illegible]の[illegible]詩句とつくり[illegible]出し[illegible]
[illegible]と石[illegible][illegible]今の[illegible]中[illegible]
劔著手節乃崎二今毛可母大宮人之玉藻苅良武
[illegible]今[illegible]一二句のつづき[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

刊本多隱岐隱州の誤也　誤りこれを傳あるといへども不可信
はとらむ至隱は海潮山者うしはきびの刊　不可用　書名偽名部の
部不書　故也又或所者　久板
或陽東或陽北或陽西或陽南　陽は草也紀名　弟國　久は落也　ナし板
しもんがうあるはいかいあるはの字の第大にて　於は九次戸也紀名
者雜名　ハ西字の之部の部の一字　ナし板　却てあるものんあるの和
そいうそうしてうんうそせいうそうしてうんうそせいうそうしてうんうそ
いうそうしてうんうそせいうそうしてうんうそせいうそうしてうんうそ
ありうあるとく偽字也　流板
ごとうの風俗　消未ハ板
うのうのうのうのうのうのうのうのうのうのうのうのうのうのうのうのうのう
のうのうのうのうのうのうのうのうのうのうのうのうのうのうのうのうのう

うのうのうのうのうのうのうのうのうのうのうのうのうのうのうのうのうのう
又或所の部の部の部の部の部の部の部の部の部の部の部の部の部の部の部の部の部
の部の部の部の部の部の部の部の部の部の部の部の部の部の部の部の部の部の部
西國者小部
陽之海都　ハ　熊西此義又部紀伊之海都者極義也　布紀海
至々等云是也有海紀伊　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
安騎野ハ大和國也　安騎野ハ大和國也　安騎野ハ大和國也　安騎野ハ大和國也
又或天皇父草壁皇子
の海の野と知りうるべしと知りの御安
ありうるべしの御
ひ門後者　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
しもうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知
うるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知
うるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知
うるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知
うるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知
うるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知
うるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知
うるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知
うるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知
うるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知
うるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知
うるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知
うるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知
うるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知
うるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知
うるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知
うるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知
うるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知
うるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知
うるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知
うるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知
うるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知
うるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知
うるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知りうるべしと知

[illegible]

雑部　阿騨乃尓宿諏訪方面ニ向ヒ都恋尓

[illegible]

真葛ヶ荒野者雖有葉過去者不見師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

東野炎立所見而　[illegible]

[illegible]

藤原宮之役民作歌一首

荒野の萩原我ゝ侵ん

[illegible]

[illegible]

食国　天御柱国造　国上　浜成

真木伐若樗乃嬬手乎　天御遠の我が妻とらば　真木の伐いの中に良木らば
天遠の我が妻とらば　樗の嬬手を
人の妻の我が妻とらば　樗の嬬手を
物乃布絁　天御遠の異文歟

つりのいう義なるべし　天御遠の異文歟
也　天云武古の姓　中ありの方の中
二　中と如　天云筆　郷の作　九　中　天の数
とすべし　一　天云物部　中　とひ　十七板
天　ありの　ふの　天　天
鴨自物　天　深　而　旨　武　天
物　中　中　中　中　中　中
天　天　天　天　天　天　天
不知国　国　巨勢道　従　旨　古　武　天
天　天　何　天　天　顕　仍　義　原　物　今　作　指　天　天　天
磯上部　磯上部　磯上部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

並有一交勝下赤白者歟相次八字 文又天平元年五月甲子朔乙卯
十六日 京職大夫從三位藤原朝臣麿貢亀一頭 獻上長四尺五寸 甲羅有
文云天皇貴平 是以後神亀六年為天平元年云々 紀百年
亀の甲とあり云々 聖徳異記云 武天皇 計夜 聖徳
の甲とあり云々 聖徳異記云 武天皇 計夜 聖徳
云々 郭氏云 有刻文 郭都云々

真木乃都麻手乎 姫前 百石足五十口太郎作

五十とばいもあどいりどもいんもあもうずとうる也百ごう
ざるうどういりもいるも

伊藤波久見者神随尓有之 云々 神のまな
らしいまもの神のまなそびあそびけまのうつのすもみ
云々 帝 神

藤原御丹歌

垣安乃堤上尓立見者 媼者云々

垣あとゝ前の石も移へらすらんの藤原丹とほせ
ゝ土とゝびとゝ 陸奥 云々
云々 垣安 云々
日種乃大御門云々 東の門 佐うさどり 板
云々 東 云々 北板
云々 背戸の大御門 云々

郡家の大門に立つ。又南大門に立つ。初の二八日の注釈に方角
あり。後の二八日の陰陽あり。山の陰陽あり。山の陽陽
業者異業紀曰 七年秋九月令諸国以玉
都之造長縣邑置稲置并賜姓以為表則隔山河而分
国縣随阡陌以定邑里因以東西為日縦以北南為日横山陽
曰影面山陰曰背面是以百姓安居天下無事焉
高知也 天之御蓋天知也 日御孫乃水評曰陽常尔有来御井
之清水

短歌 藤原之大宮都加信あれ孔衢哉處女子有之吉良賀開

時守歌 之吉良賀開如吉良者吉良賀開

[illegible]

伊蒙[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中ゝあり[illegible]用ゝゝ又仁新のごゝゝ霧打ゝゝゝ打家ゝゝ可和電れ
（可和江下十八字抹去ニ既セリ）　（あり抹本）
弥者不勾ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ」上旨みゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]　九月廿日

成本　藤原家隆　千載集　雲宮時歌題中

[illegible]

[illegible]

朝月夜清水見者榜乃穂尓霜落磐席茅渟乃氷凝冷有乎

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]也神風の授ける[illegible]次勅曰伊勢國風土
記云伊勢國者天御中主尊之十二世孫天日別命之所平治天日別命弟
彦磐余彦天皇自筑西宮征此東夷之時隨天皇到紀伊國熊野村
于時隨命爲之導入中州而到於菟田下縣天皇勅大鄙曰汝命曰
遂棄賜爲長髓彦早征罰且勅天日別命曰國有天津之方宜平
惠國早賜標劒天日別命奉勅東入數百里甚色有神名曰伊勢
津彦天日別命問曰汝國獻於天孫我者曰吾覓此國居住日久不
敢聞命矣天日別命發兵欲戮其神于時畏伏陪云吾國悉獻於
天孫吾敢不居矣天日別命答問云汝之去時何以爲驗陪曰吾以今
夜起八風吹海水來波浪將東入此則吾之都也天日別命整兵
竊之比及中夜大風四起海水瀰光耀如日陸國海浪朝遂來

波而東乎古語云神風伊勢國常世浪寄國者蓋此謂之也 伊勢津彦[illegible]
國 天日別命懷策北國後命天皇之大勅記曰國覓而西方之名号
伊勢爲天日別命之封北國賜宜足于大倭耳梨之封焉
或本云天日別命奉詔自然野村直入伊勢國敬戮
荒神罪不逆場山川定地邑然後復命稱原宮焉
私云日本紀第六陵目入彦五十狹茅天皇 仁天皇 十年春二月丁巳朔
甲子詔阿倍臣遠祖武渟川別和珥臣遠祖彦國葺中臣連遠祖大
鹿島物部連遠祖十根大伴連遠祖武日五大夫曰我先皇御間城入彦
五十瑞垣天皇惟叡作聖敏明聰達深執謙拘志懷冲退綱紀機
衡礼祭神祇財色勤躬日慎一日是以人民富足天下太平也今
當聖世奉祀神祇豈得有怠乎三月丁亥朔丙申敬天照大神於
豐鋤入姬命託倭姬命求鎮坐大神之處而詣菟田

筱懐（筱坂云）更還之入迎伊國東照義濃到伊勢國時天照大神誨
傳祈所曰是神風伊勢國則常世之浪重浪帰國也傍國可怜国
也欲居是国故随大神教五祠立於伊勢国国号斎宮于五十鈴
川上是謂磯宮則天照大神始自天降之處也

海底奥津白浪立西山伊勢廣義大義妹之嘗見義

世々の五百万路ふかくとも謹考を尋ねるべきのみひとすべ
のみひとすべ海ふかくとも世々の五百万路とよむべしとい
ふ也

の[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]つ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ

文永六年二月廿四日記之　仙覚　立判

建治元年十月十日法心仏者御覧本　散人抄写畢而

後日校合而畢等悉合書入之　同廿九日書入畢　同廿九日一校了　同

二年六月十日以秋字本一書入了　同六日一校了　玄覚　立判

僧正一条院奥稿者別当寛弁

弘安三年庚辰春月　愛知　翻刻　第一見了　管見之及

押紙　疑之

権律師　玄覚

萬葉集註釋巻第二上

第二巻

如此新恋作不有者高山之磐根四巻手　死奈麻死物乎

この歌　第二句恋作不有者と云ふ　也　歌多

以可未下略解

吾明而思平者将待　奴涙隈乃吾黒髪　霜者零騰文

ぬぐ　　　

万木千株おのづから生ひて海紙とぞ称ひける樹下に
ひさしくとどまりて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

東人之符乃筵乃符之流布毛昧情尓兼和家留秀閑

玉葛實不成樹尓逢不得者別者弟常云不成樹別尓

大伴坂上郎女歌巻四

明日香清御原宮御宇天皇代天皇賜藤原夫人御歌

[illegible]

蛇龍 蛇龍阿波紀阿波等也 魚龍也 豊後國風土記云球覃郷 球覃郷 [illegible]村
有泉 昔景行天皇行幸之時 奉賜之人 [illegible] 飯倉 泉水即有
蛇霳 謂於 [illegible] 天皇勅云必將有異 莫令汲用因斯名曰異泉
因為名 [illegible] 球覃郷者 [illegible]也 常陸國風土記云 新治郡 [illegible] 名
曰大神 [illegible] 然都者 大蛇多在因名 [illegible]
[illegible]

足日乘乃山之四付二妹待跡吾立所治山之四附二
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]見事 天平二年庚午冬十二月大宰帥大伴卿向京上
[illegible]後還入於奈良家作歌 [illegible]中云 [illegible]鶴而二作之吾山廣者
未高繁成家留鴨 [illegible]

紀[illegible]門女[illegible]

[illegible]

大船之津守之占尓将告登波曽為尓知而我二人宿之

[illegible]

[illegible]也津守連通

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

遊蘇吾者吟流手屋戸不借者乎迎利於曽能風流士

[illegible]

今多次郎云大伴田主子曰仲郎容姿佳艷風流青絶見者
同志離不能見也時有石川女郎自成双棲之感恨悲抱寄之絶
意弥寄書未達彦信家作方便而似賊犯已提鍋子而到寢
所音隔足叩戸語曰東藩貧女將死大来矣乃是仲郎情
表非識冒隱之形慮外不捷拘接之計任念而大就路歸
去也明後女郎既恥自媒之可愧復恨心契之非果因作新
歌以贈諺戯焉

吾国之耳尔好似葦若未乃足痛吾勢勤多扶信思
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ひ板

[illegible] 鍾葉百五十和 鍾名百一十和 勇名
二和不知勇名 伊佐勇名五一和 合十二和 彼鍾葉名 勇葉不
知勇百名 [illegible]

八板

[illegible] 勇名 [illegible] 勇者異者也 日紀
[illegible] 勇名地 [illegible]

不板

[illegible]

[illegible] 鍾葉百一和 勇名
[illegible] 鍾葉名 [illegible] 鍾葉名
[illegible] 鍾葉名 [illegible] 勇名
[illegible] 鍾葉名 [illegible] 勇名
[illegible] 伊佐勇百 [illegible]

母芒歌中の [illegible]
[illegible] 漁父能浦行 [illegible]
御[illegible] 抑伊佐奈登[illegible] 何為紀者 [illegible] 日紀曰 雄朝津間
稚子宿禰天皇十一年春二月 癸卯朝丙午幸 茨淳宮 衣通郎
姫 [illegible] 曰等虚 [illegible] 陪 迹根弥母 阿閇郷 [illegible] 異舎儀 [illegible] 利字弥能
波摩 [illegible] 能余沼 [illegible] 根 [illegible] 根 [illegible] 時天皇謂 衣通郎姫曰是歌不
可 [illegible] 他人 [illegible] 石閨必大恨 故時人号 濱藻謂 [illegible] 能利曽 [illegible] 也
已上 [illegible]
別捕 [illegible] 名 [illegible] 歌 [illegible]
此也 [illegible] 知 [illegible] 勇 [illegible]
[illegible] 鍾葉 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

反歌

小竹之葉者之山毛清尓乱倍吾者妹思別来礼婆

[illegible]

角鄙経石見之海乃言依敏久幸乃埼有伊久里尓曽[illegible]

敏板イ

[illegible]

言依敏久[illegible]

敏板イ

[illegible]

人[illegible]

ナシイ板

[illegible]

乃の[illegible]

[illegible]

数所乃紬者通而沾奴

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

裏書和紙云[illegible]数所[illegible]

ナシ板

[illegible]

萬葉集註釋卷第二下

第二卷之餘

早敷屋師吾嬬乃兒我

先生如何如何之男也

遠天皇 謚雄略天皇七年九月甸大見宴親聘春田皇女弟是夜侍御

不覺天曉斐然之藻忽形於言乃口唱曰野施摩倶你都摩と祁

婆伊底我絶倶你々倶婆施謎爲阿利等柘々

底与盧志謎爲阿利等柘々底莽紀佐倶避紀伊陀留爲飯斯

毘羅柘傳例以梨麼志阿都摩怒唎施底麼倶囉留利都摩怒

唎施底伊蔡我提爲傳例你麼村絶多倶我提爲磨伊蔡你麼村絶

安磨左衛門尉羅多々企阿蔵播利矢自矩矢盧于麁伊弥矢度伊々播
都等利柯碧播儺俱儺梨奴都等利柯鐵矢播等余武婆絶碧矩
漢伊麻娜以播獨底阿閑伊啓梨侯鐵慕已上の寸せんうの寸し
も如というをーもうをうをうをうをうの集の寸の寸男も如も乃も乃も乃
もあんれのてをもあんれのてをもあんれのてをも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]陵御陣哭之日於母亦兄於吾亦兄弱草吾夫柯怜矣「言於母亦
兄於吾亦兄此云者慕尼慕是阿例尼慕是言吾夫柯怜矣此云阿
我菴摩惜耶言弱草謂吉者以弱草喻妻婦故以弱草為夫哭
新喪哀今人斷腸[illegible]
[illegible]
十市皇女薨時高市皇子尊御作歌
神山之山邊真榊水纏如此耳坂本長尊思仮
[illegible]
長尊縁本縁[illegible]

[illegible]十市皇女[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
明日香清御原宮御宇天皇代天皇崩之時大后御作歌
八隅知之我大王之暮去者召鶴鳴之黄葉乎今日毛鳴向絡麻思明日毛鳴呂鶴葛吉真山辛振放見
作暮去者綾哀月来者向鶴自志神岳乃山
[illegible]

燃火物而墨而稱幽庭入燈不言心而知男雲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

明日者皇女木綿殯宮之時柿本朝臣人麿作歌一首

許呂即者川藻之如久

君与時々幸而

大船横徹而見者

旋柿賀尓有萬思

高市皇子尊城上殯宮之時作歌一首

狗鈴和射見我原乃

鳴書鳥乃目之所冥毛

八重行天皇の御子日本武尊東夷をあらためひろらとき相模国より上
総国つらつらうちなびき海路をすぐして俄に暴風にあひ日本武
武尊はしらせ給ふ橘媛の風にうたれ海中へ入給ひ
のちとそこの人いのりてすなわちなんとの
海人をして海上をうかがはしめ給ふに
風波奥のかきりなくおだやかなり日本武
尊はつくし帰雲山着とし給ふ（螢イ板）
帰雲山着とし給ふ
おりつもりて甲斐の国
に維日坂とい
ふ所にて弁橋媛を思ひ給ふ
ろまりして雄々のかりてとのそこにとどまる

のこりなく吾嬬者邪（嬬路云尤麻）
あづまのくにを見る事紙をはなれ
ぬるとなり事はあづまとは
じとなり尤麻はくまと
ひとしくくまのあるを
ひとしくくまのあるを
（ナシ板）
（ナシ板）
笑いくらんとのふくんの
いらんとのくにくにを
ものとがいくとをつ

千磐破人手和多孫不奉仕國手治源

いかち說こゝにやうのことをこゝろみるに

の和こゝにちやうのことをこゝろみるに

ろくつのものをこゝろみるに

云ものをこゝろむるとこゝろみるに

人参物之美孔安國云天地所生惟人為貴易曰大光与天地合其德

与日月合其明与四時合其序与鬼神合其吉凶禮記云人者五行之

端也上こゝろのこゝろにこゝろみるに日本紀神武天皇國常

立尊より後の神代にこゝろみるに天使出生時磐根樹根等所生

一物如葦芽之物生成五神一也便為化人號國常立尊

こゝにこゝろみるに

千磐破

こゝにこゝろみるに

こゝにこゝろみるに

こゝにこゝろみるに

こゝにこゝろみるに

こゝにこゝろみるに

こゝにこゝろみるに

こゝにこゝろみるに

こゝにこゝろみるに

こゝにこゝろみるに

こゝにこゝろみるに

こゝにこゝろみるに

こゝにこゝろみるに

こゝにこゝろみるに

こゝにこゝろみるに

こゝにこゝろみるに

こゝにこゝろみるに

こゝにこゝろみるに

こゝにこゝろみるに

こゝにこゝろみるに

安騰元地鵬

齊流鼓之音者

この句古歌に

小角乃音母

言右敏久百濟之原從

久堅乃天尓初流若故尓日月乎不知意保鳴

帝釈日月星宿之天命と云ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

姫潟　豊後国

東書曰押部云私云摂津国風記云比賣潟在古轉称豊阿佐羅宮御宇天皇世新羅国有女神道者其夫来聘住筑紫国伊波比乃比賣潟地名乃曰比賣潟者猶不足遠若居此潟男神尋来乃更遷来巻亭此潟故所本住之地名以為潟号

如此記者姫潟杉原摂津国也此二首歌中雖波多垣手向勇祢ト詠セリ故此杉原ハ摂津の国也長柴此名の[illegible]

[illegible]

忠貴親王薨時俄新編中

神之序ハ[illegible]夫之先勇義許昭而有

皆古[illegible]

[illegible]

八僧人[illegible]

[illegible]

[illegible]